

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19番33号
自己評価作成日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットに看護職員が2名づつ配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応できる。医者もすぐにかけつけてくれる。  
運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方にも参加していただき、意見交換をしたり、地域の行事の情報なども教えていただきながら地域との連携を図っている。せとでの行事にも参加していただいている。  
職員のスキルアップのために、レベルに応じた研修に参加して貰っていたり、年度ごとに個人の目標をたてて課題に取り組んだりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療機関であり、健康管理や迅速で適切な医療が受けられることは、利用者や家族にとって大きな安心である。地域との関わりを大切にしており、避難訓練等も地域の方の協力を得ながら実施することができている。職員は利用者がゆったり穏やかに過せるよう、協力し合い最良のケアが提供できるよう努めている。また、研修会にも積極的に参加し、認知症の介護に必要な知識と技術を見につけるよう心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホームせと
<b>(ユニット名)</b>	さくら
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	本田 笑 大下まゆみ 蔭谷きよみ
<b>評価完了日</b>	平成23年3月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所独自のわかりやすい理念を作成し、各ユニットに明示し、誰でも見ることができるようにしている。会議等で理念の共有を深め、ケアプランの援助方針にも取り入れ、実践につながるよう努めている。	
			(外部評価) 開設時に代表者と職員で考えた理念は今も受け継がれ、地域との連携を大切に利用者本位のサービス提供に努めている。年度ごとに理念を基に目標を立て、ホーム全体で実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、夏祭り、盆踊り、川掃除など)ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただき交流を深めている。(蛍鑑賞会など)また、日々の生活場面でも挨拶や会話を通して交流もおこなっている。	
			(外部評価) 町内会と交流が深く、行事以外にも施設内の畑で季節の野菜栽培や草刈りなどを一緒に行ったり、窓掃除のボランティアにに来てもらっている。地元の幼稚園児の訪問や中学生の体験学習等も受け入れており、地域住民の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、認知症の理解や支援方法を知っていただけるように努めている。地域の様々な研修や会合にも参加している。家族の認知症の対応など、いつでも気軽に相談を持ちかけていただくようお願いしている。入職間もないスタッフさんの中には、把握できていない方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 取り組み状況、年間計画など、地域の方、市の職員、利用者、家族に参加していただいて伝えている。要望、意見を聞き、サービスの向上に努めている。地域からも情報を提供していただき、意見交換や報告などを行っている。	
			(外部評価) 2か月ごとの会議には多くの地域住民が参加し、活発な意見交換等がされている。会議内容は詳細に記録され参加できなかった家族や職員にも報告している。	参加が困難な家族もできる限り参加できるよう日程調整等の工夫をして、多くの方から今以上に活発な意見交換ができる有意義な会議になるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営、ケアサービスの不明な点などについて連絡を取り相談している。運営推進会議にも参加していただき、取り組みなど伝え協力していただけるよう努めている。	
			(外部評価) 市社協や介護保険課など不明なことがあれば問い合わせるようにしており、協力を得ている。必要に応じて障害福祉課とも連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はカギをかけず、門を開放している。身体拘束ゼロの手引きを各ユニットに置いて理解を深め、拘束しないケアに努めている。	
			(外部評価) 利用者の安全確保のため、やむを得ずベッドに柵をしているケースに対し、身体拘束ゼロの手引きをもとに職員間で検討しながら、拘束が延長されないよう努めている。玄関は24時間施錠していない。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の記事を回覧で回し、見過ごすことがないように努めている。 高齢者虐待法についても定期学習会で、勉強している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についてのファイルを作り、各ユニットに置いている。 また、現在利用している方もおられるため、以前に比べて身近なものとなり、学びやすくなった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ゆっくり時間をとり、十分な説明をし、理解していただけるようにしている。不明な点などは聞いていただき、納得できるよう説明している。 改定などがあつたときは、家族会を開いたり、手紙を送って承認をいただくなど周知徹底を図っている。 ターミナル、医療面などはその都度説明している。 入職間もないスタッフの中には、把握してない方もいる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、家族会などで意見、要望などを出していただき、全スタッフが共有し話し合い、きちんと対応できるよう努めている。入職間もないスタッフの中には、把握してない方もいる。  (外部評価) 家族から意見や要望があつた場合は、報告書にまとめ検討会を開き、速やかに改善し家族に報告している。 家族と共に協力し合い利用者が平穩に過ごせるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 個別面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っている。代表者にもこの内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 職員の年齢や考え方に違いはあっても、職員同志何でも話し合うことができる関係が構築されている。職員の意見等はホームのケア向上に活かしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 幹部職員が職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら待遇面を決定している。職員のやりがいを考え、毎年少しづつでも昇給できるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員のレベルに応じて研修を受けて貰っている。県内外で行われる研修会などには職員が参加しやすいよう、費用面についても支援している。研修後には報告書を書いて貰い、会議などで発表したり、学習会を開催するなどして共有している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聞き、安心していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の苦勞、不安なこと、要望など相手の身になって話を聞き、事業所でどのような対応ができるか、きちんと話し合いをして関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の状況を把握し、その時必要な支援を見極め、多職種と相談し、サービス利用ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションをとりながら、そばに寄り添い、信頼関係が築けるよう努めている。 洗濯物をたたんだり、食事の準備、片づけを一緒に行うなどして支えあう関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出、外泊、通院など御家族の協力を得ている。日々の出来事、体調変化などの情報を共有し、本人と一緒に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の本人の馴染みの物、人、場所を大切に、御家族から話を聞き、それらが途切れないようにしている。いつでも面会に来ていただけるようにしているうえ、電話や手紙なども自由にやりとりしていただいている。 関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけを行っている。 (外部評価) 個別ケアを基本に理念を実践するため、入所時は「支援マップシート」を活用して家族から情報を得ている。入居期間の長い利用者については職員からの情報を日々の生活に反映させ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士が、共に過ごす時間を大切にし、必要時には職員が間に入り、入居者同士が支えあえるような関係が築けるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院したときは、面会に行き状況把握に努めている。必要に応じて相談に乗り、支援していくようつとめている。その後の経過状況を把握し、フォローできるよう支援している。入職間もないスタッフの中には、把握してない方もいる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できる限り、思いや希望にそえるよう支援している。きちんと把握するよう本人や家族に思いや意向を聞いている。  (外部評価) 利用者の思いや意向を日常の会話や表情等から汲み取り、希望を尊重し利用者本位を心がけ、優しく温かいケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートを家族に記入していただき、バックグラウンドの把握に努めている。馴染みのものを持ってきていただくようにしている。在宅時の家を訪問し、生活環境を確認したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方を理解し、観察、見守りを常に行い、心身状態、残存機能、現状の把握に努めている。少しの変化も見逃さないように努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を取り入れて話し合いを行い、一人ひとりの現状に合わせた介護計画を作成している。この場合できるだけ家族、本人に参加していただいている。状態に変化があれば、その都度話し合いを行い、新たな計画を作成している。  (外部評価) 利用者の変化や家族の要望を基本に、普段のケアの中から、職員の気づきを大切に計画作成している。記録には工夫が見られ、誰が読んでもわかりやすい記述となっている。看護職員が多く、専門的な観点から詳しく記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に水分、食事、排泄など身体状況、日々の暮らしの状況、気づいた点など記録に残すなどして情報を共有している。重要なことはラインを引くなどして介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。入居者が買い物に行きたいとの要望が出た場合などはできる限り対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。 消防、警察とも意見交換の機会を設けている。 地域包括支援センターの職員とも情報を共有し、協働している。しかし、入職間もない職員さんがおり地域資源を把握しきれないことも事実である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診や通院は本人、家族の希望に応じて支援してい る。かかりつけ医との情報交換を密にし、共有できる よう支援している。  (外部評価) ほとんどの利用者が母体の医療機関を主治医としてい る。年2回健康診断や歯科の訪問診療もあり、結果は 家族に報告している。他の専門医に受診する時は、職 員が受診介助し経過を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、利用者の健康 管理や状態の変化に応じた支援ができるようにしてい る。医療機関との連携があり、緊急時の対応がすぐ にとれる。また、日ごろの状況を訪問看護師などに、 情報提供するなどし、必要に応じた支援が出来るよう にも努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) サマリーに詳しく状況を記入し、情報交換をしてい る。医師、ナース、ご家族より状態を聞いたり、相談 しながら、早期退院に向けて協働している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入 居時に説明している。 本人や家族の希望を聞き、どこまで対応できるか、職 員も一緒に話し合い、医師、看護師、介護福祉士、家 族共々支援に取り組んでいる。  (外部評価) 過去に看取りをした経験もあり、利用者や家族の意向 を尊重しながら穏やかに最期を迎えられるよう努めてい る。落ち着いて対応できるよう主治医や看護師、介護 職員など関係する職員で事前に綿密に検討されてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、急変時の対応について研修を行っている。マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見られるようにしている。全ての職員に実践力があるのかは、難しい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加していただき、協力が得られる体制を築いている。 夜間の緊急時の召集訓練も行っている。  (外部評価) 夜間を想定した消防訓練など、職員や地域の防災士、自治会の人達と実施している。緊急連絡網の訓練も定期的に行なっている。災害時の水や食料は、ホームの内と外の倉庫に分けて備蓄し、毛布や新聞紙なども持ち出しやすい場所に確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 穏やかな言葉かけや対応ができるよう、気を配っている。一人一人思っておられることが違うため、プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。  (外部評価) 利用者の人格を尊重した対応をするよう心がけている。不適切な対応が見られた時は、職員間で注意し合うよう努めている。外部から講師を招き、接遇についての研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人ひとりのペースに合わせて、生活を大切にし、職員主導の生活にならないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。 行きつけの美容室があれば、通えるように支援するよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みを考えて、必要時には、嫌いなものと取り除いて、他の物を用意している。入居者のできる力を活かし、職員と一緒に準備したり、片付けをしている。楽しく食事ができるよう心がけている。また、ミキサー食の入居者様には食事の説明を行ったり、彩りよくしたりしている。 (外部評価) 共通の献立を基本に、それぞれのユニットで利用者の希望を取り入れながら食事を作っている。敷地内で採れた野菜を活用し、季節感のある食事が提供されている。強制的にならないよう配慮しながら手伝ってもらい、職員と利用者が楽しく食事ができるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状況を把握し、1日の水分、栄養バランス、習慣に応じた支援をしている。嚥下状態を把握し、それに合わせた食事形態にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアが行えるよう支援している。一人ひとりの状態に応じた見守りや介助をしている。ポリデントを使用して清潔保持にも努めている。また必要に応じて、歯科衛生士さんに来ていただき口腔ケアをおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態に応じて、パッド、紙パンツ、布パンツなどで対応している。	
			(外部評価) 入居時おむつを使用していた利用者が、排泄パターンに応じて誘導した結果、トイレでの排泄が可能になった事例がある。失敗した場合も、利用者の羞恥心に配慮し、適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分をきちんと摂って貰ったり、マッサージを行ったりしている。必要に応じ、排便チェック表を作成し、パターンの把握に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせて入浴して貰っている。チェック表を作り、入浴の状況を把握している。一人ひとりのニーズに合わせて、健康状態も考えながら入浴して貰っている	
			(外部評価) 介助が必要な利用者の入浴時間は決まっているが、リフトを活用し負担がかからない入浴が行われている。一人で入浴できる利用者は、必要に応じて職員が見守りを行いながらいつでも入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調や本人の希望に応じて昼寝をして貰っている。日中はよく活動して貰い、夜間は安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人ひとりが服薬している薬について理解するよう努めている。薬の変更時は、職員に申し送りを行っている。薬は職員が管理し、一人ひとりの内服を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 花を生けていただいたり、踊り、歌などの演芸などを楽しみに行ったり、イベントにも参加して貰うよう支援している。庭へ出たりして気分転換を図っている。また、体調をみながら、花見や遠足など外出支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全体的な外出や季節ごとの外出は計画を立てて行っている。車椅子の利用者が多い為、一人ひとりの希望を聞いての対応が難しくなっている。ご家族の協力も得ながら、季節を感じる事ができるよう支援している。 (外部評価) 利用者の希望する近隣のスーパーに買い物に出かけたり、お花見や苺狩り、海へのドライブなど、体調を考慮しながら外出支援をしている。ホームは敷地が広い為、屋外でラジオ体操をしたり、おやつを食べたりして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、所持できる利用者には少額所持していただき、自分で使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があるときは、電話も手紙もいつでもやり取りできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。 料理の臭いや音などで生活感のある環境を作り、花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している。体温調節の困難な方には、冷暖房、除湿、換気、掛け物の調整等を行っている。</p> <p>(外部評価) ユニットごとに利用者の身体状況に合わせ、ソファの配置等配慮している。共有空間には、行事などの思い出の写真を掲示したり、季節の飾り付けをしている。屋外の庵はベンチがあり、憩いの場所となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。ホール、居室を思い思いに使って過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の使い慣れたものを持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう配慮している。 壁に写真や絵を貼ったりして工夫している。</p> <p>(外部評価) ベッド以外は私物で、花瓶に花を活けたり思い思いの飾り付けをするなど居心地のいい居室になっている。西側の窓にはすだれを掛け、遮光や季節感にも配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーで手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。ここにこんな手すりがあったら良いなどの提案があれば、大工仕事のできる職員が即取り付けられている。トイレなど共有部分には混乱しないよう紙に書いて貼っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19番33号
自己評価作成日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットに看護職員が1名以上配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応できる。医者もすぐにかけつけてくれる。  
運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方にも参加していただき、意見交換をしたり、地域の行事の情報なども教えていただきながら地域との連携を図っている。せとでの行事にも参加していただいている。  
職員のスキルアップのために、レベルに応じた研修に参加して貰っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療機関であり、健康管理や迅速で適切な医療が受けられることは、利用者や家族にとって大きな安心である。地域との関わりを大切にしており、避難訓練等も地域の方の協力を得ながら実施することができている。職員は利用者がゆったり穏やかに過せるよう、協力し合い最良のケアが提供できるよう努めている。また、研修会にも積極的に参加し、認知症の介護に必要な知識と技術を見につけるよう心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームせと
(ユニット名)	たんぽぽ
記入者(管理者)	
氏名	尾崎里美 大下まゆみ 蔭谷きよみ
評価完了日	平成23年3月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を明示し、共有している。また、日々、実践できるよう努力している。	
			(外部評価) 開設時に代表者と職員で考えた理念は今も受け継がれ、地域との連携を大切に利用者本位のサービス提供に努めている。年度ごとに理念を基に目標を立て、ホーム全体で実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、夏祭り、盆踊り、川掃除など) ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただき交流を深めている。(蛍鑑賞会、夏祭りなど)	
			(外部評価) 町内会と交流が深く、行事以外にも施設内の畑で季節の野菜栽培や草刈りなどを一緒に行ったり、窓掃除のボランティアにに来てもらっている。地元の幼稚園児の訪問や中学生の体験学習等も受け入れており、地域住民の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、認知症の理解や支援方法を知っていただけるように努めている。地域の様々な研修や会合にも参加している。 家族の認知症の対応など、いつでも気軽に相談を持ちかけていただくようお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 取り組み状況、年間計画など、地域の方、市の職員、利用者、家族に参加して頂き伝えたり、要望や意見を聞きサービスの向上に努めている。地域からも情報を提供していただき、意見交換や報告などを行っている。	
			(外部評価) 2か月ごとの会議には多くの地域住民が参加し、活発な意見交換等がされている。会議内容は詳細に記録され参加できなかった家族や職員にも報告している。	参加が困難な家族もできる限り参加できるよう日程調整等の工夫をして、多くの方から今以上に活発な意見交換ができる有意義な会議になるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営、ケアサービスの不明な点などについて連絡を取り相談している。 運営推進会議にも参加していただき、取り組みなど伝え協力していただけるよう努めている。	
			(外部評価) 市社協や介護保険課など不明なことがあれば問い合わせるようにしており、協力を得ている。必要に応じて障害福祉課とも連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束ゼロの手引きを各ユニットに置いて理解を深め拘束しないケアに努めている。また、そのつど、その行為が拘束につながるかどうか話し合いをしている。	
			(外部評価) 利用者の安全確保のため、やむを得ずベッドに柵をしているケースに対し、身体拘束ゼロの手引きをもとに職員間で検討しながら、拘束が延長されないよう努めている。玄関は24時間施錠していない。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の記事を回覧で回し、見過ごすことがないように努めている。 高齢者虐待法についても定期学習会で、勉強している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についてのファイルを作り、各ユニットに置き、理解するよう努めている。成年後見制度を活用し支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ゆっくり時間をとり、十分な説明をし、理解していただけるようにしている。不明な点などは聞いていただき、納得できるよう説明している。 改定などがあつたときは、家族会を開いたり、手紙を送って承認をいただくなど周知徹底を図っている。 ターミナル、医療面などはその都度説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、家族会などで意見、要望などを出していただき、全スタッフが共有し話し合い、きちんと対応できるよう努めている。  (外部評価) 家族から意見や要望があつた場合は、報告書にまとめ検討会を開き、速やかに改善し家族に報告している。家族と共に協力し合い利用者が平穩に過ごせるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 個別面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っている。代表者にもこの内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 職員の年齢や考え方に違いはあっても、職員同志何でも話し合うことができる関係が構築されている。職員の意見等はホームのケア向上に活かしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 幹部職員が職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら待遇面を決定している。職員のやりがいを考え、毎年少しづつでも昇給できるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員のレベルに応じて研修を受けて貰っている。県内外で行われる研修会などには職員が参加しやすいよう、費用面についても支援している。研修後には報告書を書いて貰い、会議などで発表したり、学習会を開催するなどして共有している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聞き、安心して利用して頂けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の苦勞、不安なこと、要望など相手の身になって話を聞き、事業所でどのような対応ができるか、その都度話し合いをし、家族との信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の状況を把握し、その時必要な支援を見極め、多職種と相談し、サービス利用ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションをとりながら、共に生活をする者同士として良い関係を築けるよう努力している。洗濯物をたたんだり、食事の準備、片づけを一緒に行うなどして支えあう関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出、外泊、通院など御家族の協力を得ている。日々の出来事、体調変化などの情報を共有し、本人と一緒に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の本人の馴染みの物、人、場所を大切に、御家族から話を聞き、それらが途切れないようにしている。いつでも面会に来ていただけるようにしているうえ、電話や手紙なども自由にやりとりしていただいている。 関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけを行っている。 (外部評価) 個別ケアを基本に理念を実践するため、入所時は「支援マップシート」を活用して家族から情報を得ている。入居期間の長い利用者については職員からの情報を日々の生活に反映させ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士が、共に過ごす時間を大切に、必要時には職員が間に入り、入居者同士が支えあえるような関係が築けるよう支援している。また、孤立しないよう席を配慮したりと、支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院したときは、面会に行き状況把握に努めている。必要に応じて相談に乗り、支援していくようつとめている。その後の経過状況を把握し、フォローできるよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常的に本人の話を聞いたり家族に話を聞いたりして、できる限り、思いや希望にそえるよう支援している。 きちんと把握するよう本人や家族に思いや意向を聞いている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を日常の会話や表情等から汲み取り、希望を尊重し利用者本位を心がけ、優しく温かいケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートを家族に記入していただき、バックグラウンドの把握に努めている。 馴染みのものを持ってきていただくようにしている。 在宅時の家を訪問し、生活環境を確認したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方を理解し、観察、見守りを常に行い、心身状態、残存機能、現状の把握に努めている。 少しの変化も見逃さないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を取り入れて話し合いをして、一人ひとりの現状に合わせた介護計画を作成している。この場合できるだけ家族、本人に参加していただいている。状態に変化があれば、その都度話し合いをして、新たな計画を作成している。  (外部評価) 利用者の変化や家族の要望を基本に、普段のケアの中から、職員の気づきを大切に計画作成している。記録には工夫が見られ、誰が読んでもわかりやすい記述となっている。看護職員が多く、専門的な観点から詳しく記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に水分、食事、排泄など身体状況、日々の暮らしの状況、気づいた点など記録に残すなどして情報を共有している。重要なことはラインを引くなどして介護計画の見直しに活かしている。また、本人が言った事はそのままだ記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。入居者が買い物に行きたいとの要望が出た場合などはできる限り対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。 消防、警察とも意見交換の機会を設けている。 地域包括支援センターの職員とも情報を共有し、協働している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 受診や通院は本人、家族の希望に応じて支援してい る。かかりつけ医との情報交換を密にし、共有できる よう支援している。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が母体の医療機関を主治医としてい る。年2回健康診断や歯科の訪問診療もあり、結果は 家族に報告している。他の専門医に受診する時は、職 員が受診介助し経過を家族に報告している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、利用者の健康 管理や状態の変化に応じた支援ができるようにしてい る。医療機関との連携があり、緊急時の対応がすぐに とれる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) サマリーに詳しく状況を記入し、情報交換をしてい る。医師、ナース、ご家族より状態を聞いたり、相談 しながら、早期退院に向けて協働している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入 居時に説明している。 本人や家族の希望を聞き、どこまで対応できるか、職 員も一緒に話し合い、Dr、ナース、介護福祉士、家 族共々支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 過去に看取りをした経験もあり、利用者や家族の意向 を尊重しながら穏やかに最期を迎えられるよう努めてい る。落ち着いた対応できるよう主治医や看護師、介護 職員など関係する職員で事前に綿密に検討されてい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、急変時の対応について研修を行って、実践力が身につくよう努力している。マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見れるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加していただき、協力が得られる体制を築いている。 夜間の緊急時の召集訓練も行っている。  (外部評価) 夜間を想定した消防訓練など、職員や地域の防災士、自治会の人達と実施している。緊急連絡網の訓練も定期的に行なっている。災害時の水や食料は、ホームの内と外の倉庫に分けて備蓄し、毛布や新聞紙なども持ち出しやすい場所に確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 穏やかな言葉かけや対応ができるよう、気を配っている。一人一人思っておられることが違うため、プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。  (外部評価) 利用者の人格を尊重した対応をするよう心がけている。不適切な対応が見られた時は、職員間で注意し合うよう努めている。外部から講師を招き、接遇についての研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人ひとりのペースに合わせて、生活を大切にし、職員主導の生活にならないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。 行きつけの美容室に行かれている方もいる。洋服は自分で選んでもらいその人らしいおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みを考えて、必要時には、嫌いなものと取り除いて、他の物を用意している。入居者のできる力を活かし、職員と一緒に準備したり、片付けをしている。職員と一緒に楽しく食事ができるようにしている。 (外部評価) 共通の献立を基本に、それぞれのユニットで利用者の希望を取り入れながら食事を作っている。敷地内で採れた野菜を活用し、季節感のある食事が提供されている。強制的にならないよう配慮しながら手伝ってもらい、職員と利用者が楽しく食事ができるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状況を把握し、1日の水分、栄養バランス、習慣に応じた支援をしている。嚥下状態を把握し、それに応じた食事形態にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアが行えるよう支援している。 一人ひとりの状態に応じた見守りや介助をしている。 ポリデントを使用して清潔保持にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 一人一人にあった自立支援をしている。また、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っていて、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態に応じて、パッド、紙パンツ、布パンツなどで対応している。	
			<p>(外部評価)</p> 入居時おむつを使用していた利用者が、排泄パターンに応じて誘導した結果、トイレでの排泄が可能になった事例がある。失敗した場合も、利用者の羞恥心に配慮し、適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 水分をきちんと摂って貰ったり、マッサージを行ったりしている。必要に応じ、排便チェック表を作成し、パターンの把握に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 一人ひとりの希望に合わせて入浴して貰っている。チェック表を作り、入浴の状況を把握している。一人ひとりのニーズに合わせて、健康状態も考えながら入浴して貰っている	
			<p>(外部評価)</p> 介助が必要な利用者の入浴時間は決まっているが、リフトを活用し負担がかからない入浴が行われている。一人で入浴できる利用者は、必要に応じて職員が見守りを行いながらいつでも入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> その日の体調や本人の希望に応じて昼寝をして貰っている。日中はよく活動して貰い、夜間は安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人ひとりが服薬している薬について理解するよう努めている。薬の変更時は、職員に申し送りを行っている。薬は職員が管理し、一人ひとりの内服を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 踊り、歌や園芸、カラオケなどを楽しみに行ったり、イベントにも参加して貰うよう支援している。庭へ出たりして気分転換を図っている。また、体調をみながら、花見や遠足、いちご狩りなど外出支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全体的な外出や季節ごとの外出は計画を立てて行っている。車椅子の利用者が多い為、一人ひとりの希望を聞いての対応が難しくなっている。ご家族の協力も得ながら、季節を感じるができるよう支援している。 (外部評価) 利用者の希望する近隣のスーパーに買い物に出かけたり、お花見や苺狩り、海へのドライブなど、体調を考慮しながら外出支援をしている。ホームは敷地が広い為、屋外でラジオ体操をしたり、おやつを食べたりして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、所持できる利用者には少額所持していただき、自分で使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があるときは、電話も手紙もいつでもやり取りできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。 料理の臭いや音などで生活感のある環境を作り、花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している。体温調節の困難な方には、冷暖房、除湿、換気、掛け物の調整等を行っている。</p> <p>(外部評価) ユニットごとに利用者の身体状況に合わせ、ソファの配置等配慮している。共有空間には、行事などの思い出の写真を掲示したり、季節の飾り付けをしている。屋外の庵はベンチがあり、憩いの場所となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。ホール、居室を思い思いに使って過ごされている。一人が良い時はそっとしてあげるなど気づかっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の使い慣れたものを持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう配慮している。 壁に写真や絵を貼ったりして工夫している。</p> <p>(外部評価) ベッド以外は私物で、花瓶に花を活けたり思い思いの飾り付けをするなど居心地のいい居室になっている。西側の窓にはすだれを掛け、遮光や季節感にも配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーで手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。ここにこんな手すりがあったら良いなどの提案があれば、大工仕事のできる職員が即取り付けられている。トイレなど共有部分には混乱しないよう紙に書いて貼っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19-33
自己評価作成日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議が定期的に関かれ、諸行事を通し、地域との連携を図っている。地域の自治会、役員会に出席し、地域行事に参加したりして、地域との連携がとれている。母体が医療法人であり、看護職員も多く配置されており、健康管理、異常の早期発見、緊急時対応ができるように努力している。夜間も看護職員が当番制で駆けつけてくれるようになっている。職員個人のスキルアップのために、研修に参加しやすいように配慮されている。学習担当者が中心になってそれぞれのレベルにあった研修に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療機関であり、健康管理や迅速で適切な医療が受けられることは、利用者や家族にとって大きな安心である。地域との関わりを大切にしており、避難訓練等も地域の方の協力を得ながら実施することができている。職員は利用者がゆったり穏やかに過せるよう、協力し合い最良のケアが提供できるよう努めている。また、研修会にも積極的に参加し、認知症の介護に必要な知識と技術を見につけるよう心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 横田裕美・大下まゆみ・蔭谷きよみ

評価完了日

平成23年3月31日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 明るく、楽しく、穏やかにを理念とし、入居者の地域参加、地域住民との交流を大切にし、入居者それぞれが、その人らしく暮らせるように支援している。会議などで理念の共有を深め、実践につながるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者と職員で考えた理念は今も受け継がれ、地域との連携を大切に利用者本位のサービス提供に努めている。年度ごとに理念を基に目標を立て、ホーム全体で実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 町内会の行事等に積極的に参加している。(運動会・夏祭り・盆踊り・川掃除など)また、ホームの行事である、蛍観賞、夏祭りなどが町内会の行事の一つになっている。</p> <p>(外部評価) 町内会と交流が深く、行事以外にも施設内の畑で季節の野菜栽培や草刈りなどを一緒に行ったり、窓掃除のボランティアにに来てもらっている。地元の幼稚園児の訪問や中学生の体験学習等も受け入れており、地域住民の一員として交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解や支援方法について知って頂けるように努めている。また、防災に関する取り組みの中で、入居者の生活を理解していただけるよう、機会あるごとにお話している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議には、町内会の役員の方、御家族が参加され、日々の取り組みや、ホームの行事の参加の呼びかけ、気軽に意見が言い合える関係性ができており、参加できなかった職員、御家族にも内容を報告し、その意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 2か月ごとの会議には多くの地域住民が参加し、活発な意見交換等がされている。会議内容は詳細に記録され参加できなかった家族や職員にも報告している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議で、市の担当者の方に参加していただき、日頃の取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。また、運営・ケアサービスの不明な点などについては、市の担当者に連絡をとり、相談している。</p> <p>(外部評価) 市社協や介護保険課など不明なことがあれば問い合わせるようにしており、協力を得ている。必要に応じて障害福祉課とも連携を図っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束マニュアルを各ユニットに置いたり、所内研修などで勉強し情報を共有している。玄関の施錠をせず、入居者が一人で敷地内を歩いているときなどは、事務所の職員も入居者に声をかけたり、見守りをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の安全確保のため、やむを得ずベッドに柵をしているケースに対し、身体拘束ゼロの手引きをもとに職員間で検討しながら、拘束が延長されないよう努めている。玄関は24時間施錠していない。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルを作成している。また、研修会、勉強会に参加したり、虐待の関連記事等があれば、読み合わせたり、回覧等して防止に努めている。言葉の虐待には特に注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度に関するファイルを各ユニットに置き、いつでも閲覧できるようにしている。また、家族から相談を受けた時や、入居者の病状の悪化に伴い必要に応じて活用を支援している。現在二人の成年後見制度を利用している方がおられる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居に関して、契約書にある内容だけでなく、その他の不安に関しても説明し、十分理解が得られるように配慮している。家族会を開いたり、手紙を送ったり、その都度説明をし、理解してもらえるようにしている。特に医療面、ターミナルケアに関してはその都度、十分な説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームの行事、家族会、ご家族の来所時に意見を聴き、迅速に対応することを目指して、カンファレンスを開催するようにしている。それらの内容を全スタッフで共有し、運営に反映している。  (外部評価) 家族から意見や要望があった場合は、報告書にまとめ検討会を開き、速やかに改善し家族に報告している。家族と共に協力し合い利用者が平穩に過ごせるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 業務カンファレンスで意見を出し合い、そこで意見などを、責任者会議、運営会議に反映している。また、必要に応じて、個人面接をしている。意見や提案を聞く機会を作っている。</p> <p>(外部評価) 職員の年齢や考え方に違いはあっても、職員同志何でも話し合うことができる関係が構築されている。職員の意見等はホームのケア向上に活かしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら、待遇面を決定している。職員のやりがいを考え、毎年少しずつでも昇給を実行している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員一人一人のレベルに応じて研修に参加できるように調整している。サービスの質の向上を目指す事を重要と考えており、外部研修に参加している。参加後、報告書を書いてもらい、学習会をするなどして、情報を共有している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換し、サービスの向上に繋がるよう努めている。医療法人のGH同士で事例を通じた学習会に参加して交流を深めたり、他のホームの行事に参加させてもらこともある。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聴き、安心していただけるよう努めている。信頼関係が築けるまで、特にコミュニケーションを大切に、不安や要望に耳を傾け、ご本人の気持ちを受け止め、関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の苦勞、不安なこと、要望など相手の身になって話しを聞き、事業所でそのような対応ができるか、きちんと話し合いをして関係づくりに努めている。また、入居後もできるだけ頻回に状況を報告するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前からの関係機関、本人・家族の状況を把握し、職員と意見交換しながら、その方にあったサービスが提供できるよう努めている。(ショートステイ等を含めて)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションをとりながら、そばに寄り添い、信頼関係が築けるよう努めている。共に時間を共有し、買い物、洗濯物たたんだり、干したり、食事の下ごしらえ、片付け、カレンダー作りを一緒に行うなどして支えあう関係作りをしている。入居者の言動、笑顔に励まされている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、手紙、電話などで、毎日の生活状況や体調の変化などお知らせし、共に本人を支えていく関係を築いている。サービス計画の見直しの際や面会の時には、本人、御家族に意向や要望を確認するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の生活状況・環境を良く知り、これまでの馴染みの関係が途切えることがないよう、電話・手紙などのやりとりを自由に行っている。いつでも面会に来ていただけるようにしている。関係が途切れないよう、家族の方へ協力の働きかけを行っている。外出支援の協力が得られる。 (外部評価) 個別ケアを基本に理念を実践するため、入所時は「支援マップシート」を活用して家族から情報を得ている。入居期間の長い利用者については職員からの情報を日々の生活に反映させ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いに助け合い、声をかける場面があり、利用者同士が関わりをもって支えあっている。長い経過の中で、それぞれの居場所が確保されている。感情や気分の変化がある為、注意深く見守り必要に応じて、職員が間に入って、良い関係が保てるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設入所、病院に入院されたときは、面会に行ったり、連絡をとり、その後の状況の把握に努めている。必要に応じて相談にのり、支援していくように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意向や要望を聞き、出来る限り、思いや要望に添えるように努めている。困難な場合は、1人ひとりの生活パターンに応じた支援に心がけている。家族の協力が得られず困難な場合もある。できるだけスタッフで対応できる工夫をしている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を日常の会話や表情等から汲み取り、希望を尊重し利用者本位を心がけ、優しく温かいケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅に訪問し、生活環境の把握に努めている。ご家族や関係機関からの情報を大切にしている。また、入居者との会話の中から、これまでの生活環境の把握に努めている。フェイスシートを記入していただき、バックグラウンドの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方を理解し、心身の状態、現状の把握に努め、少しの変化も見逃さないように努めている。体調を考慮しながらできる事を出来るときにしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居者の担当職員、計画作成担当者を中心に、カンファレンスを行い、本人・ご家族の要望を確認しながら、スタッフの気づき、意見を取り入れ個別性のある介護計画の作成に努めている。また、計画変更の必要性の有無は1ヶ月毎にチェックし、モニタリングを記録に残している。状態の変化があればその都度、介護計画を作成している。  (外部評価) 利用者の変化や家族の要望を基本に、普段のケアの中から、職員の気づきを大切に計画作成している。記録には工夫が見られ、誰が読んでもわかりやすい記述となっている。看護職員が多く、専門的な観点から詳しく記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に水分、ケア上の重要な点、計画に位置づけられている内容については、蛍光ペンで下線を入れて、どの職員にもわかるように工夫している。微細なケア内容の変更は計画書に赤字で追加し工夫している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 職員体制を整え、受診支援、入退院の連絡調整、入院中の情報収集、緊急時の家族の宿泊など、その時の要望に応えるよう柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。消防、警察とも意見交換の機会を設けている。地域包括支援センターの職員とも情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> できる限り入居者・御家族の希望するかかりつけ医が 継続できるようにしている。基本的には職員が同行す るが、受診が長時間になる場合は家族の協力が得られ るよう、予め了承を得ている。状況に応じて、往診を 受けることも可能で、医師がすぐに駆けつけれる体制 をとっている。	
			<p>(外部評価)</p> ほとんどの利用者が母体の医療機関を主治医としてい る。年2回健康診断や歯科の訪問診療もあり、結果は 家族に報告している。他の専門医に受診する時は、職 員が受診介助し経過を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 毎日の様子とバイタルサインを介護職員が確認し、い つもと違う症状や値のときは看護職員に相談してい る。必要に応じ、医師に報告し、指示を受けたり、受 診の介助をしている。夜間においても必要に応じて看 護職員が応援できる体制にしている。看護職員会議で 各ユニットの状況を把握し、対応できるようにしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 緊急入院時にはできる限り職員が同行し、介護サマ リーにて情報提供している。入院中は面会に行き、療 養の様子や状況をナースや主治医と情報交換をし、相 談をしながら早期退院に向けて努めている。退院前 には再度面会に行き、退院後、困らないように状況把握 に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 重度化した場合やターミナルケアに関しては、入居時 から説明し、状況に応じて再度説明し、柔軟な支援が できるように取り組んでいる。職員全体でターミナル ケアに関して学ぶ機会を持つようにしている。ターミ ナルとはいかないが、状況が悪化した場合には考えら れるリスクを説明し、対応策についても協議してい る。	
			<p>(外部評価)</p> 過去に看取りをした経験もあり、利用者や家族の意向 を尊重しながら穏やかに最期を迎えられるよう努めてい る。落ち着いて対応できるよう主治医や看護師、介護 職員など関係する職員で事前に綿密に検討されてい る。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習に参加したり、所外研修に参加したり、ホームの学習会で、応急手当や初期対応の実践力を身につけている。比較的、看護体制、医療連携にたよりがちになっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害・防災マニュアルを作成しており、1ヶ月に1度職員全体で読み合わせをしている。地域の防災訓練にも参加し、ホームでも災害訓練を行い、地域のかたに参加していただき、協力体制を築いている。夜間緊急時の召集訓練も行っている。  (外部評価) 夜間を想定した消防訓練など、職員や地域の防災士、自治会の人達と実施している。緊急連絡網の訓練も定期的に行なっている。災害時の水や食料は、ホームの内と外の倉庫に分けて備蓄し、毛布や新聞紙なども持ち出しやすい場所に確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) さりげない食事介助、トイレ誘導、声掛けなど、入居者のプライドを大事にしている。記録類もプライバシーに配慮し、ホール内ではなく、昼の間や事務所に保管管理している。遠くからではなく、側での穏やかな言葉かけや対応ができるように気を配っている。  (外部評価) 利用者の人格を尊重した対応をするよう心がけている。不適切な対応が見られた時は、職員間で注意し合うよう努めている。外部から講師を招き、接遇についての研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に聞きながら、自己決定できるように支援している。意思表示の難しい利用者は、感情、表情やしぐさから読み取るようにしたり、ご家族に確認しながら決定を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者の意向や体調を確認しながら、一人ひとりのペースに合わせて支援するようにしている。(食事・買い物など)職員が意見を出し合いながら、希望に添った支援を心がけている。外出など希望に添えないこともある。(理由は様々・・・家族の事情など)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の服装を職員と一緒に考え選んでいる。また、ほとんどの入居者が出張美容院を利用されているが、ご家族と行きつけの理・美容院に行かれる方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の状態に応じ、食べたいときに、食べたいものを摂取していただけるようにしている。入居者と職員が同じテーブルで一緒に食事をしている。料理の下ごしらえ、食器拭きなど入居者と一緒に行っている。盛り付けを工夫して(彩りなど)食事を楽しみになるように工夫している。 (外部評価) 共通の献立を基本に、それぞれのユニットで利用者の希望を取り入れながら食事を作っている。敷地内で採れた野菜を活用し、季節感のある食事が提供されている。強制的にならないよう配慮しながら手伝ってもらい、職員と利用者が楽しく食事ができるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった量、形態(刻み、一口大など)自力摂取できるように工夫している。食事の摂取量、水分摂取量をチェックし、食事量の少ない時は、加味のあるものを摂ってもらっている。一度に水分が摂りにくい入居者には時間を置いたり、飲み方、飲み物を変えて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。一人ひとりの状態に応じた見守り、介助をしている。炎症がないかなど、口腔内の状態を注意して観察している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別に排泄パターンをアセスメントし、それぞれの状況に応じて、紙パンツ、パットなど利用している。個々に応じた、声掛け、誘導をしている。排泄パターンがつかみきれない場合でも、清潔で気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	
			(外部評価) 入居時おむつを使用していた利用者が、排泄パターンに応じて誘導した結果、トイレでの排泄が可能になった事例がある。失敗した場合も、利用者の羞恥心に配慮し、適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便パターンを把握して、水分をすすめたり、食事の工夫、適度な運動をしている。排便が困難な場合は、主治医と相談して苦痛がないようにしている（一人ひとりにあった緩下剤の工夫など）	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の希望に沿って、入浴支援をしている。チェック表を作り、入浴状況を把握している。一人ひとりのニーズに合わせて、健康状態も考えながら入浴して貰っている。入浴できない時は、清拭をしている。重度の方にはリフト浴を利用し、負担の軽減を図っている。入浴カードを作り、入浴嫌いの利用者には工夫をしている。	
			(外部評価) 介助が必要な利用者の入浴時間は決まっているが、リフトを活用し負担がかからない入浴が行われている。一人で入浴できる利用者は、必要に応じて職員が見守りを行いながらいつでも入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の活動リズムを大切に、外気浴をしたり、寝る前に温かい牛乳を飲んでもらったりしている。その方の生活習慣に応じて（冬場が「カボ」など利用）安眠できるよう支援している。その日の体調に応じてお昼寝をして貰っている。意思表示のできない方は表情をみて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を利用して服薬ファイルを作成し、変更があれば、その都度修正している。作用・副作用、用法などわかるようになっている。薬は職員が管理し、一人ひとりの内服を確認している。個人に合わせて、服用しやすい形態を工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生け花、外食、散歩、買い物、料理、洗濯など個々の生活歴や力に応じて役割があり、日々に生活の張りや楽しみになっている。八百屋さんやパン屋さんの車の販売を楽しみに買い物をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 入居者の希望にできるだけそえるよう外出支援している。買い物、ドライブ、外食など、また日々の生活の中で敷地内での外気浴、散歩など、外の空気を感じられるようご家族の協力を得ながら支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望する近隣のスーパーに買い物に出かけたり、お花見や苺狩り、海へのドライブなど、体調を考慮しながら外出支援をしている。ホームは敷地が広いので、屋外でラジオ体操をしたり、おやつを食べたりして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、所持できる利用者には少額所持していただいている。困難な方は金庫に預かり、必要時に出している。出納は専用の用紙に記入し、ご家族に定期的に確認していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 日常的に電話は利用できる。話す内容が聞かれない方には子機を使用し、居室で電話していただいている。ホームに住所移動されておられる方もあり、個人宛に手紙が送られてくる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有部分であるホールにはソファがあり、絵画や見やすい時計、生け花、いつでも音楽が聴けるようになっている。生活感や季節感を感じることができるよう工夫している。トイレ、浴室など清潔に保ち、臭いに気をつけ、不快のないようにしている。塩素系の消毒液で、毎日拭き掃除をして、衛生面に配慮している。</p> <p>(外部評価) ユニットごとに利用者の身体状況に合わせ、ソファの配置等配慮している。共有空間には、行事などの思い出の写真を掲示したり、季節の飾り付けをしている。屋外の庵はベンチがあり、憩いの場所となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は個室で自分の空間として過ごしていただける。ホールに出ればソファがあり、ゆったりと思いつきの場所で過ごされ、会話を楽しんだり、編み物、読書などをされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れたタンス、時計、写真、自分で書いた絵や貼り絵が飾られ、居心地のよい居室になるようにしている。仏壇を居室に置き、お供えなどもされている方もおられる。</p> <p>(外部評価) ベッド以外は私物で、花瓶に花を活けたり思い思いの飾り付けをするなど居心地のいい居室になっている。西側の窓にはすだれを掛け、遮光や季節感にも配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 認知症の程度や判断力に応じて、安全に生活できるように居室、トイレ、浴室などに大きく表示したり、家具の配置を工夫している。</p>	